

* 広い意味での西洋中世（古代末期～近世、イスラーム、ユダヤ、中東アジアなども含む）に関する刊行された業績を、自己申告していただいたものです（氏名=五十音順）。

朝治啓三（アサジ ケイゾウ）

「1253年グロステストの *Gravamina*」『関西大学文学論集』69(4)、83-114頁。

阿部俊大（アベ トシヒロ）

[単行本 分担執筆] 金澤周作監修『論点・西洋史学』（ミネルヴァ書房）、担当執筆箇所「II-14 レコンキスタ」94-95頁。

[雑誌論文]「中世イベリア半島におけるイスラーム教徒・異教徒の奴隷」『歴史評論』846、15-26頁。

[翻訳]ミケル・デ・エパルサ「8世紀のイスラームの征服に関する覚書：バスク人、ベルベル人、ヴァイキング、ノルマン人とブリトン人の「マジューズ」」『文化學年報』（同志社大学）69、37-50頁。

[翻訳]ヤスミン・ビール＝リヴァヤ「「モサラベ」という言葉の歴史と変遷」『人文学』（同志社大学）205、204-168頁。

[翻訳]カロリーナ・ドメネク＝ベルダ「アル＝アンダルスとファーティマ朝：貨幣学からの証言」『人文学』（同志社大学）206、110-79頁。

猪刈由紀（イカリ ユキ）

「バーゼルから見る二つの寛容——ドイツ・キリスト教協会と二つの宗教令 オーストリア（1781）とプロイセン（1788）」『キリスト教史学』（キリスト教史学会）74、230-245頁。

池上俊一（イケガミ シュンイチ）

『ヨーロッパ中世の想像界』（名古屋大学出版会）

「小さき者たちの言葉を求めて」『理想の詩』2020夏、16頁。

石田隆太（イシダ リュウタ）

「ペトルス・ヨハニス・オリヴィと個体化の問題」『中世思想研究』（中世哲学会）62、38-53頁。

「諸天体と諸天使の種別化：トマス・アクィナスと種の理論」『哲学』（三田哲学会）145、35-69頁。

「フランシスコ・スアレと諸天使の種別化：トマス説に対する或るイエズス会士の立場」『哲学・思想論叢』（筑波大学哲学・思想学会）38、41-55頁。

[翻訳]「ペトルス・ヨハニス・オリヴィ『哲学者たちの著書を読み通すことについて』 試訳」『宗教学・比較思想学論集』（筑波大学宗教学・比較思想学研究会）21、49-62頁。

[翻訳]「ドゥンス・スコトゥス『命題集 講義録』第2巻第3区分第1部第2問題～第3問題 試訳」『筑波哲学』（筑波大学哲学研究会）28、75-88頁。（本間裕之との共訳）

[翻訳]「ジョン・ペッカム『世界の永遠性に関する問題集』第一問題 試訳」『古典古代学』（筑波大学大学院人文社会科学研究科古典古代学研究室）12、65-84頁。

[翻訳]「トマス・アクィナス『「魂について」註解』第三巻第三章～第四章 試訳」『哲学・思想論集』（筑波大学大学院人文社会科学研究科哲学・思想専攻）45、205-228頁。（高石憲明との共訳）

[翻訳]「トマス・アクィナス『「魂について」註解』第三巻第三章～第五章 試訳」『倫理学』（筑波大学倫理学研究会）36、127-141頁。（高石憲明との共訳）

[書評]John Skalko, *Disordered Actions: A Moral Analysis of Lying and Homosexual Activity*. 『中世思想研究』（中世哲学会）62、132-137頁。

[新刊紹介]Alberto Ara, *Angeli e Sostanze Separate: L'idea di materia spiritualis nel Medioevo*. 『西洋中世研究』 12、147-148 頁.

[新刊紹介]Duns Scotus (a cura di Davide Riserbato), *L'essere degli accidenti nell'Eucaristia*. 『西洋中世研究』 12、170 頁.

[新刊紹介]Juan Fernando Sellés, *El intelecto agente y los filósofos: Venturas y desventuras del supremo hallazgo aristotélico sobre el hombre*. 『西洋中世研究』 12、171 頁.

[新刊紹介]John Skalko, *Disordered Actions: A Moral Analysis of Lying and Homosexual Activity*. 『西洋中世研究』 12、171-172 頁.

市川佳世子 (イチカワ カヨコ)

[書評] Herbert L. Kessler and Richard G. Newhauser eds, with the assistance of Arthur J. Russell, *Optics, Ethics, and Art in the Thirteenth and Fourteenth Centuries: Looking into Peter of Limoges's Moral Treatise on the Eye*. *RACAR: revue d'art canadienne / Canadian Art Review* 45, no. 2, pp. 166-168.

伊藤亜紀 (イトウ アキ)

「甘い」は「美味しい」? 『地中海学会月報』 427、5 頁.

井上浩一 (イノウエ コウイチ)

『歴史学の慰め』 (白水社)

「ビザンツ史の時代区分」 金澤周作監修 『論点・西洋史学』 (ミネルヴァ書房) 62-63 頁.

今井澄子 (イマイ スミコ)

『北方近世美術叢書 V ネーデルラント美術の宇宙—ネーデルラントから地中海世界、パリ、そして神聖ローマ帝国へ—』 (単編著、ありな書房)

“The Portrait of Philip the Good, Duke of Burgundy at Prayer: Crossing of Sacred and Profane, or Public and Private in Early Netherlandish Painting,” *Bulletin of Osaka Ohtani University*, 54, pp. 143-171.

「初代ブルゴーニュ公フィリップ豪胆公の祈禱者像と祈禱者像のブランド化をめぐって」 『大阪大谷大学 歴史文化研究』 20、1-22 頁.

[書評] 「クロード・パラダン著、田中久美子+伊藤博明訳 『エンブレム原典叢書 4 英雄的ドゥヴィーズ集』 ありな書房、2019 年」 『図書新聞』、3433、第 4 面.

[新刊紹介]Katherine Anne Wilson, *The Power of Textiles, Tapestries of the Burgundian Dominions (1363-1477)*, Turnhout, Brepols Publishers, [Burgundica (BURG 26)], 2018, XII+221 p., 28 b/w ill., 2 b/w tables, €74,00. 『西洋中世研究』 12、174-175 頁.

岩波敦子 (イワナミ アツコ)

「適正な時の把握を目指して—カロリング朝の文教政策と暦算法 (computus) 論争」 神崎忠昭・野元晋編 『自然を前にした人間の哲学 古代から近代にかけての 12 の問いかけ』 (慶應義塾大学出版会)、165-195 頁.

内川勇太 (ウチカワ ユウタ)

『前近代ユーラシア西部における貨幣と流通のシステムの構造と展開 (科学研究費基盤 (A)) 報告書 (III・IV)』 (鶴島博和との共編著)

Provenance of the cross sign of 806 in the Anglo-Saxon Chronicle: a possible lunar halo over continental Europe? *History of Geo- and Space Sciences* 11(1), pp.81-92, doi: 10.5194/hgss-11-81-2020 (Les Cowley, Hisashi Hayakawa, David M. Willis, F. Richard Stephenson との共著)

「アングロ＝サクソン期イングランドの貨幣単位と計算単位」『前近代ユーラシア西部における貨幣と流通のシステムの構造と展開 (科学研究費基盤 (A)) 報告書(III・IV)』、213-222 頁。

[翻訳]アンドレア・サッコッチ「カロリング朝の貨幣システム ヨーロッパ経済の発展における転換点」『前近代ユーラシア西部における貨幣と流通のシステムの構造と展開 (科学研究費基盤 (A)) 報告書(III・IV)』、147-151 頁。

[翻訳]マルタン・グラヴェル「初期中世における政治的コミュニケーションと書簡」『青山史学』38、53-71 頁。

[翻訳]ヨハネス・プライザー＝カペラー「危機の中の2つの帝国—11世紀のグローバルな文脈におけるビザンツ帝国と神聖ローマ帝国—」『西洋史研究』新輯49、87-116 頁。

[翻訳]「2019年度西洋史研究大会共通論題報告「中世の帝国 — ネットワークの諸相—」IV 討論」『西洋史研究』新輯49、163-186 頁。(ヨハネス・プライザー＝カペラー氏発言箇所)

[共訳・解題]デイヴィッド・ロフ「地域統治における対等でないパートナーか?—『ドゥームズデイ・ブック』の銭貨製造人たち—」『西洋史学』269、58-75 頁。(新井由紀夫との共訳)

梅村尚幸 (ウメムラ ナオユキ)

「ドイツの城」『ドイツ文化事典』(丸善出版) 82-83 頁。

大黒俊二 (オオグロ シュンジ)

「史料をなぜ分類するのか—「限界リテラシー」という切り口—」『西洋史学』268

「史料をなぜ分類するのか—「限界リテラシー」という切り口—」『西洋史学』268、92-105 頁。

「浮動するエゴ、もう一つのエゴ、創られるエゴ—魔女ベレッツァ・オルシーニの審問記録と手記 (一五二八年) より—」長谷川貴彦編『エゴ・ドキュメントの歴史学』岩波書店、19-44 頁。

『ハーメルン』と『無縁』から『嘘と食欲』へ—出会いと対話の創造力—」『日本史研究』(日本史研究会) 700、3-13 頁 92-105 頁。

「浮動するエゴ、もう一つのエゴ、創られるエゴ—魔女ベレッツァ・オルシーニの審問記録と手記 (一五二八年) より—」長谷川貴彦編『エゴ・ドキュメントの歴史学』岩波書店、19-44 頁。

『ハーメルン』と『無縁』から『嘘と食欲』へ—出会いと対話の創造力—」『日本史研究』(日本史研究会) 700、3-13 頁。

大貫俊夫 (オオヌキ トシオ)

金澤周作他編『論点・西洋史学』(分担執筆「中世修道会」88-89 頁、ミネルヴァ書房)

石田勇治編『ドイツ文化事典』(分担執筆「ドイツ地域の中世」78-79 頁、「修道院」80-81 頁、丸善出版)

大沼由布 (オオヌマ ユフ)

「マンティコア変奏曲—実在と幻想の狭間」東雅夫・下楠昌哉責任編集『幻想と怪奇の英文学 IV—変幻自在編』(春風社)、54-75 頁。

The Great Khan and the Mongols in *Mandeville's Travels*: Medieval European Observation and Imagination. *Études Médiévales Anglaises* 95, pp. 41-66.

「西洋中世の百科事典の系譜」安形麻里編『2019年度極東証券寄付講座文献学の世界「書物と知の組織化」』(慶應義塾大学文学部)、63-74 頁。

岡北一孝（オカキタ イッコウ）

「古典主義者アルベルティ再考：マラテスタ神殿の凱旋門モチーフの意図とその受容」、木俣元一、松井裕美編『古典主義再考 I 西洋美術史における「古典」の創出』（中央公論美術出版）、211-242 頁。
「歴史的建築の再利用と建築家の創造性」（第 4 章）、『リノベーションからみる西洋建築史—歴史の継承と創造性』（共著、彰国社）、64-79 頁。

「アルベルティの *varietas* と *concinnitas*：絵画、建築、音楽をめぐって」 *Arts & Media*, Vol. 10, pp. 27-52.

「コンキンニタース再考」、『2020 年度日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 F-2, 建築歴史・意匠』、355-356 頁。

【新刊紹介】Diana Y. Ng and Molly Swetnam-Burland (eds.), *Reuse and Renovation in Roman Material Culture: Functions, Aesthetics, Interpretations*, Cambridge (UK), Cambridge University Press, 2018, 『西洋中世研究』12、164-165 頁。

尾形希和子（オガタ キワコ）

【事典】「グロテスク「美」術における「醜」の表現」美学会編『美学の事典』（丸善出版）、174-175 頁。

【新刊紹介】Brigitte D'Hainaut-Zveny, Alain Dierkens et Constantin Pion (eds.), *Iconographie médiévale entre Antiquité et art roman. D'acanthes et d'écaillés. Recueil d'articles de Jacqueline Leclercq-Marx*, Turnhout, Brepols, 2019, 『西洋中世研究』12、149-150 頁。

小澤実（オザワ ミノル）

「文書をめぐる冒険—古文書・偽文書・公文書」（馬部隆弘と対談）『ユリイカ（特集：偽書の世界：ディオニシウス文書、ヴォイニッチ写本から神代文字、椿井文書まで）』2000 年 11 月号、36-48 頁。

「大久保利謙と立教大学史学科（1958-71）」佐藤雄基編『明治が歴史になったとき：史学史としての大久保利謙』（勉誠出版）、86-113 頁。

「2-6 ヴァイキングのエスニシティ」「2-12 1 2 世紀ルネサンス」金沢周作他編『論点・西洋史学』（ミネルヴァ書房）、78-79 頁&90-91 頁。

「ヴァイキングが切り開いた北極圏交易—セイウチの牙をめぐるグローバルな経済構造」秋道智彌・角南篤編『海とヒトの関係学③海はだれのものか』（西日本出版社）、96-111 頁。

「皇帝フリードリヒ 2 世—交易ネットワークと学知文芸の再編者」石田勇治監修『ドイツ文化事典』（丸善出版）、90-91 頁。

「ルネサンスにおけるテキスト・知識人・政治」『史苑』81(1)、9-12 頁。

「ネットワーク化されたスカンディナヴィア世界における 海上「帝国」の形成—船舶、交易中心地、イェリング王権—」『西洋史研究』新輯 49、116-137 頁。

「世界史教科書記述と知の歴史—西洋史学の視点」『科学史研究』295、269-274 頁

「中世グローバルヒストリーの潮流」『史苑』80(2)、135-166 頁。

「ウィーン発の中世グローバルヒストリー：ヨハネス・プライザー＝カペラー博士連続講演会」（諫早庸一と共著）『史苑』80(2)、114-134 頁。

「序（特集：グローバルヒストリーと中世ヨーロッパ(2):ドイツ語圏の視点）」『史苑』80(2)、43-48 頁。

「「グローバルな中世」から「中世のゾミア」へ：オックスフォードの中世グローバルヒストリー」『史苑』80(1)、95-109 頁。

「序（特集：グローバルヒストリーと中世ヨーロッパ(1):イギリスの視点）」『史苑』80(1)、7-10 頁。

「第 2 回：ルーン文字の誕生」（研究社 Web マガジン *Lingua* 連載「ルーン文字の遍歴」）

「趣旨説明(第70回日本西洋史学会大会小シンポジウムII「中世北ヨーロッパにおける海域ネットワーク、島嶼、政治権力)」第70回日本西洋史学会大会HP.

「ヴァイキングゆかりの商都」『工芸青花』14、124-128頁.

「第1回:プロローグ:ルーン文字とは何か」(研究社WebマガジンLingua連載「ルーン文字の遍歴」)『ヴィンランド・サガ』の世界を語る!歴史とサガとエンターテイメント!-せんだい歴史学カフェ座談会:幸村誠氏を囲んで-(大谷哲・幸村誠・松本涼・伊藤盡・中丸禎子と共著)『東海大学紀要(文学部)』110、85-110頁.

「ヴァイキングの切り開いた交易ルート」『Ocean Newsletter』471、6-7頁.

「カール大帝の修道院」『工芸青花』13、38-40頁.

[翻訳・解説]「ヨハネス・プライザー=カペラー「微生物学からみた初期グローバリゼーション:2世紀から8世紀の疫病と帝国の絡み合い」」『史苑』81(1)、101-116頁.

[翻訳]「マレク・ヤンコヴィアク「北ヨーロッパへのディルハム導入のクロノロジーとその歴史的含意」」鶴島博和編『前近代ユーラシア西部における貨幣と流通のシステムの構造と展開III・IV』(科研費報告書)、164-169頁.

[翻訳]「チャールズ・バーネット「十二世紀ルネサンス」」(阿部晃平と共訳)『史苑』80(1)、66-94頁

[翻訳]「マレク・ヤンコヴィアク「奴隷のためのディルハム:9・10世紀のイスラーム世界と北ヨーロッパ間の交易」」『史苑』80(1)、36-65頁.

[翻訳]「キャサリン・ホームズ「グローバルな中世:問題とテーマ」」『史苑』80(1)、11-35頁.

[新刊紹介]「Marika Mägi, *The Viking Eastern Baltic* (ARC Past Imperfect), Leeds: ARC Humanities Press, 2019, viii+102 p., 15.95 €」『西洋中世研究』12、161-162頁.

[新刊紹介]「Catherine HOLMES and Naomi STANDEN (eds.), *The Global Middle Ages*, Oxford, Oxford Academic, 2018; Johannes PREISER-KAPPELLER, Lucian REINFANDT, and Yannis STOURATIS (eds.), *Migration Histories of the Medieval Afroeurasian Transition Zone: Aspects of Mobility between Africa, Asia and Europe, 300-1500 C. E.*, Leiden-New York, Brill, 2020; Erik HERMANS (ed.), *A Companion to the Global Early Middle Ages*, Leeds, ARC Humanities Press, 2020」『西洋中世研究』12、158-161頁.

[書評]「井上浩一『歴史学の慰め アンナ・コムネナの生涯と作品』(白水社、2020)」『日本経済新聞』9月19日

[書評]「2019年読書アンケート」『みすず』689、13-14頁.

嵩井里恵子(カサイ リエコ)

「中世のパリ:都市代表組織の形成を中心に」中野隆生、加藤玄編著『フランスの歴史を知るための50章』(明石書店)、70-76頁.

梶原洋一(カジワラ ヨウイチ)

「托鉢修道会の誕生と拡大-都市社会のキリスト教信仰」中野隆生・加藤玄編著『フランスの歴史を知るための50章』(明石書店)、83-89頁.

「アッシジの聖フランチェスコ一人のカリスマとその『記憶』の物語」鈴木董編『侠の歴史:西洋編上+中東編』(清水書院)、202-217頁.

加藤玄(カトウ マコト)

『フランスの歴史を知るための50章』(中野隆生との共著、明石書店)

「14世紀の危機」「ジャンヌ・ダルク」金澤周作監修『論点・西洋史学』(ミネルヴァ書房)、116-119頁.

加納修 (カノウ オサム)

鈴木董編『侠の歴史 西洋編(上)+中東編』(清水書院)共著、「ルートヴィヒ (ルイ) 敬虔帝」110-12 頁。

「儀礼・象徴・意思決定」の比較史に向けて」河内祥輔・小口雅史・M・メルジオヴスキ・E・ヴィダー編『儀礼・象徴・意思決定—日欧の古代・中世書字文化—』(思文閣出版)、226-235 頁。

[新刊紹介] マガリ・クメール/ブリューノ・デュメジル著、大月康弘/小澤雄太郎訳『ヨーロッパとゲルマン部族国家』(文庫クセジュ)『史学雑誌』129(2)、111 頁。

河原温 (カワハラ アツシ)

「15 世紀ブルゴーニュ公国の世界—宮廷・都市・儀礼—」小野賢一編『ヨーロッパ前近代の複合国家 (愛知大学人文社会学研究所)、7-21 頁。

「《モンプリエ・パーチメントの謎—ブルゴーニュ公シャルル・ル・テメレールの統治における政治的アレゴリーの一例—」『放送大学研究年報』37、75-82 頁。

菊地重仁 (キクチ シゲト)

『『フランキア』から『フランス』へ:『フランク人』小史』中野隆生・加藤玄編『フランスの歴史を知るための 50 章』(明石書店)、22-28 頁。

「西方キリスト教世界の形成」三浦徹編『750 年 普遍世界の鼎立』(歴史の転換期 3) (山川出版社)、79-131 頁。

Communication techniques and their effects in the Carolingian age: Preface. *Spicilegium* 3, pp. 1-2.
Threat and menace for stability: on the use of sanction clauses under the early Carolingians. *Spicilegium* 3, pp. 15-25.

[研究ノート] Some remarks on consensual aspects in the Carolingian monastic communities 『青山史学』38、37-52 頁。

「記録を残し記憶が残る:カロリング期の史料と中世におけるカロリング期にまつわる過去の想起」『西洋中世研究』12、2-18 頁。

北館佳史 (キタダテ ヨシフミ)

「12 世紀のシトー会シルヴァネス修道院の歴史叙述における起源の記憶」『人文研紀要』(中央大学人文科学研究所) 96、1-27 頁。

『オバジーヌの聖エティエンヌ伝』試訳 (2) 『紀要』(中央大学文学部) 281、77-100 頁。

久木田直江 (クキタ ナオエ)

“The *Liber specialis gratiae* in a Devotional Anthology: London, British Library, MS Harley 494”, in ‘*This tretice, by me compiled: Late Medieval Devotional Compilations in England*, ed. Marleen Cré, Diana Denissen and Denis Renevey (Turnhout: Brepols, 2020), pp. 341-60.

黒川正剛 (クロカワ マサタケ)

「西欧近世の魔術信仰における感覚・実践・マテリアリティ」川田牧人・白川千尋・飯田卓編『現代世界の呪術—文化人類学的探究』(春風社)、329-353 頁。

桑原夏子 (クワバラ ナツコ)

[論文] 「「聖帯を持つ聖母の魂」図像についての基礎的研究」『芸術学』(慶應義塾大学三田芸術学会)

23、41-60 頁。

[論文]「クレシェンザーゴのサンタ・マリア・ロッサ聖堂内陣壁画研究—聖母晩年伝と葬礼美術との関わり」『美術史研究』（早稲田大学美術史学会）57、47-56 頁。

[新刊紹介]Holly Flora, *Cimabue and the Franciscans*. 『西洋中世研究』12、153-154 頁。

児嶋由枝（コジマ ヨシエ）

「日本のイエズス会画派と東アジア：マカオの《聖体顕示容器を持つ大天使ミカエル》とマニラの《ロザリオの聖母》」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』66、531-542 頁。

小沼義雄（コヌマ ヨシオ）

Enide et Diane: le mythe cynégétique et la *translatio imperii* dans *Erec et Enide*. C. Girbea, M. Voicu, I. Panzaru, C. Anton, A. Popescu (eds.), *Miroirs arthuriens entre images et mirages: Actes du XXIV^e Congrès de la Société Internationale Arthurienne*, Turnhout, Brepols Publishers, 2020 (CSM 34), pp.329-339.

木場智之（コバ トモユキ）

Francisco de Vitoria's idea of natural law and its relationship with division of things. *interface – Journal of European Languages and Literatures* 11, pp. 1-19.

「社会的動物としての人間」と「政治社会」：フランシスコ・デ・ビトリアのテキストから、『西洋中世研究』12、93-110 頁。

小林繁子（コバヤシ シゲコ）

「魔女が集う山—ブロッケン山」石田勇治／佐藤公紀／柳原伸洋／宮崎麻子／木村洋平編『ドイツ文化事典』（丸善出版）、104-105 頁。

「魔女迫害」金澤周作監修・藤井隆／青谷秀紀／古谷大輔／坂本優一郎／小野沢透編著『論点・西洋史学』（ミネルヴァ書房）、174-175 頁。

小宮真樹子（コミヤ マキコ）

「アーサー王伝説における騎士と狂気」東雅夫・下楠昌哉編『幻想と怪奇の英文学 IV 変幻自在編』（春風社）、318-37 頁。

[書評] Julia Marvin, *The Construction of Vernacular History in the Anglo-Norman Prose Brut Chronicle: The Manuscript Culture of Late Medieval England*. *Studies in Medieval English Language and Literature* 35, pp. 85-88.

坂本邦暢（サカモト クニノブ）

Between Cartesianism and orthodoxy: God and the problem of indifference in Christoph Wittich's *Anti-Spinoza*. With Yoshi Kato. *Intellectual History Review*. Published online: 10 Dec 2020.

櫻井康人（サクライ ヤスト）

『十字軍国家の歴史—エルサレム王国の構造』（名古屋大学出版会）

「13 十字軍」金澤周作（監修）・藤井崇／青谷秀紀／古谷大輔／坂本優一郎／小野沢透（編著）『論点・西洋史学』（ミネルヴァ書房）、92-93 頁。

「コラム 03 日本人初のエルサレム巡礼者と東北のキリシタン」東北学院大学文学部歴史学科編『大学で学ぶ東北の歴史』（吉川弘文館）、78-79 頁。

「ボードゥアン 4 世癩王」鈴木董編『侠の歴史—士は己を知る者のために死す、「侠」に生きた勇者たち—西洋編上+中東編』（清水書院）、170-185 頁。

「アンジュー家支配下のラテン・ギリシアに関する一考察—1294 年のコルフ住民の嘆願を手がかりに」『ヨーロッパ文化史研究』21、79-99 頁。

佐々井真知（ササイ マチ）

「中世後期ロンドンの金細工師ギルドと「外国人」—規約に注目して—」『人文学部研究論集』（中部大学人文学部）43、71-97 頁。

佐々木博光（ササキ ヒロミツ）

「資本主義論」金澤周作編『論点・西洋史学』（ミネルヴァ書房）、138-139 頁。

Historische Studien zu den Stipendienstiftungen an der Universität Basel in der Frühen Neuzeit, in: *Beiträge zur Ritterordens-, Preußen- und Städteforschung. Festschrift für Roman Czaja zum 60. Geburtstag*, hrsg. v. Sarnowsky, Jürgen usw., Debrecen, S. 635-667.

[翻訳]ルイーゼ・ショルン＝シュッテ著「カール・ランプレヒト—産官学連携のなかの文化史—その3」『人文学論集』38、289-325 頁。

佐藤彰一（サトウ ショウイチ）

[新刊紹介] Stefan Esders, Yaniv Fox, Yitzhak Hen and Lauri Sarti (eds.) *East and West in the Early Middle Ages. The Merovingian Kingdoms in Mediterranean Perspective*, Cambridge University Press, Cambridge, 2019, 360p. 『西洋中世研究』12、151-152 頁。

[新刊紹介] Mischa Meier, *Geschichte der Völkerwanderung. Europa, Asien und Afrika vom 3. bis zum 8. Jahrhundert n. Chr.*, C.H.Beck Verlag, München, 2019, 1531p. 『西洋中世研究』12、163-164 頁。

佐藤猛（サトウ タケシ）

『百年戦争—中世ヨーロッパ最後の戦い』（中央公論新社）

「エティエンヌ・マルセル」堀越宏一編『侠の歴史 西洋編下』（清水書院）、26-41 頁。

「1444 年トゥール休戦協定の成立過程とフランス諸侯」『関西大学西洋史論叢』22、59-80 頁。

「中世後期アンジュー公国におけるルネ・ダンジューの奉仕者集団～ボーヴォー家～（2）」『秋田大学教育文化学部紀要・人文社会科学』75、39-49 頁。

「朝治啓三「シモン・ド・モンフォール研究の現在—アンジュー帝国の視点から」」『法制史研究』69、277-279 頁。

佐藤公美（サトウ ヒトミ）

「一揆／盟約—中世日本とヨーロッパにおける共同体の言語と表象」江川温／マルク・スミス／田邊めぐみ／ハンノ・ウェイスマン（共編）『東西中世のさまざまな地平—フランスと日本の交差するまなざし—』（セレーナ・フェレンテとの共著、知泉書館、191-218 頁）

「海とイタリア同盟—15 世紀後半イタリア半島領域国家間システムにおける地中海—」『関学西洋史論集』43、5-20 頁。

「イタリア同盟における戦争と諸国家システム—十五世紀イタリア半島の政治空間—」『歴史評論』838、44-55 頁。

[翻訳]マルコ・ベッラバルバ「新たな空間の創造—近世ティロルとオーストリアの貴族—」『甲南大学紀要 文学編』170、159-166 頁。

[新刊紹介]アルド・A・セッティア著、白幡俊輔訳『戦場の中世史——中世ヨーロッパの戦争観——』『史学雑誌』129(12)、87頁。

佐野大起 (サノ ダイキ)

「パライオロゴス朝初期ビザンツ帝国(1261-1328年)における皇帝称讃演説」『西洋史研究』新輯49、1-33頁。

柴田隆功 (シバタ タカノリ)

「ボンーハインリヒ1世—中世の道」『地中海学会月報』426、4頁。

渋谷聡 (シブタイ アキラ)

[書評]「池谷文夫『神聖ローマ帝国—ドイツ王が支配した帝国』」『図書新聞』3437、4頁。

図師宣忠 (ズシ ノブタダ)

「中世フランス王権の歴史的展開」上垣豊編『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』(ミネルヴァ書房)、2-16頁。

「騎士道精神と宮廷風恋愛」上垣豊編『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』(ミネルヴァ書房)17-25頁。

「中世フランスの社会と文化」上垣豊編『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』(ミネルヴァ書房)26-42頁。

「迫害社会の形成」金澤周作監修『論点・西洋史学』(ミネルヴァ書房)、96-97頁。

「カタリ派のコスモロジー—中世南フランスの信仰と異端迫害—」中野隆夫・加藤玄編『フランスの歴史を知るための50章』(明石書店)、77-82頁。

「中世フランス貨幣史研究のための覚書」鶴島博和編『前近代ユーラシア西部における貨幣と流通のシステムの構造と展開(III・IV)』科学研究費基盤(A)(代表:鶴島博和)報告書、177-186頁。

瀬戸直彦 (セト ナオヒコ)

«Quelques remarques sur un texte du “Maistre dels trobadors” – *Leu chansonet’ e vil* (Giraut de Borneil : PC 242, 45), in *Fidélité et dissidences, Actes du XII^e congrès international de l’AIEO, Albi, 10-15 / 07, 2017*, SFAIEO (Section française de l’Association internationale d’études occitanes), Université de Toulouse, pp. 103-112.

「マルカブリュにおける二つの「思考」(PC 239, 19) —ことわざ引用の妙—」『*Études françaises* 早稻田フランス語フランス文学論集』27、1-27頁。

苑田亜矢 (ソノダ アヤ)

「トマス・ベケット——『教会の自由』のために闘った殉教者——」鈴木董編『侠の歴史 西洋編(上)・中東編』(清水書院)、158-168頁。

「シモン・ド・モンフォール——英雄か? 国政改革運動の指導者——」鈴木董編『侠の歴史 西洋編(上)・中東編』(清水書院)、218-227頁。

高木麻紀子 (タカギ マキコ)

『ガストン・フェビュスの『狩猟の書』挿絵研究』(中央公論美術出版)

「ヨーロッパ中世写本の世界：書物に棲まう動物たち」『青淵』861(12)、14-17頁。

瀧本佳容子（タキモト カヨコ）

- 『わがシードの歌』 村松真理子・横山安由美編『世界文学の古典を読む』NHK 出版、120-138 頁。
『ティラン・ロ・ブラン』 村松真理子・横山安由美編『世界文学の古典を読む』NHK 出版 139-156 頁。
「旅のテキスト、テキストの旅」村松真理子・横山安由美編『世界文学の古典を読む』NHK 出版、282-287 頁。
「カスティージャ王アルフォンソ 10 世の『七部法典』 - 俗語の「帝王学大全」 -」安形麻理編『文献学の世界：書物と知の組織化』 35-55 頁。

田口正樹（タグチ マサキ）

- 「皇帝カール 4 世の統治スタイルと紛争解決」『中世後期ドイツにおける多元的コミュニケーションと政治秩序』科学研究費補助金基盤研究 (C) (研究代表者 服部良久) 成果報告書 58-76 頁。
[翻訳]アルブレヒト・コルデス「リユーベック法の体系化—バルデヴィク写本 (1294 年) をめぐって」『北大法学論集』 71(1)、117-140 頁。
[共訳]マリアン・フュッセル「間近から見たグローバル・ヒストリー—当事者たちの証言による七年戦争 (1756-1763 年)」(前田星との共訳)『北大法学論集』 70(5)、61-81 頁。
「ヨーロッパ 中世 中東欧・北欧」(2019年の歴史学界—回顧と展望)『史学雑誌』 129(5)、325-328 頁。
[新刊紹介]「池谷文夫『神聖ローマ帝国—ドイツ王が支配した帝国』(世界史の鏡 国家 7) (刀水書房 2019 年)」『史学雑誌』 129(7)、75-76 頁。
[新刊紹介]「Heikki PIHLAJAMÄKI, Markus D. DUBBER & Mark GODFREY (eds.), The Oxford Handbook of European Legal History, Oxford-New York, Oxford University Press, 2018, 1192p.」『西洋中世研究』 12、166-167 頁。
[新刊紹介]「Bernd SCHNEIDMÜLLER (ed.), König Rudolf I. und der Aufstieg des Hauses Habsburg im Mittelalter, Darmstadt, Wissenschaftliche Buchgesellschaft, 2019, 512p.」『西洋中世研究』 12、169 頁。

田島篤史（タジマ アツシ）

- [共訳]「イェルク・ヴィクラム『少年の鑑』(1554 年) (7)」『独逸文学』(関西大学独逸文学会) 64、33-43 頁。

田中俊之（タナカ トシユキ）

- 「スイスの起源」金澤周作監修、藤井崇・青谷秀紀・古谷大輔・坂本優一郎・小野沢透編著『論点・西洋史学』(ミネルヴァ書房)、110-111 頁。

田辺清（タナベ キヨシ）

- 「再考・レオナルド・ダ・ヴィンチと東方」『東洋研究』(大東文化大学東洋研究所) 216、69-80 頁。

田邊めぐみ（タナベ メグミ）

- 『東西中世のさまざまな地平—フランスと日本の交差するまなざし』(江川温、マルク・スミス、ハンノ・ウェイスマンとの共編、知泉書館)
「「家族の肖像」から辿るマルグリット・ドルレアンの祈りのかたち」新谷英治編『祈りと祈りの場』(東西学術研究所研究叢書) 10、195-213 頁。
[執筆協力]「西欧と極東における印章—美術史学からの比較の試み」(アンブル・ヴィラン論文への執

筆協力) 江川温、マルク・スミス、田邊めぐみ、ハンノ・ウェイスマン共編『東西中世のさまざまな地平——フランスと日本の交差するまなざし』(知泉書館)、239-260 頁。

[報告書]「日本とフランスにおける中世学の未来にむけて(「美術に関する国際交流援助」研究報告、鹿島美術財団年報別冊) 37、641-645 頁。

[新刊紹介] Juliette Dumasy-Rabineau, Nadine Gastaldi et Camille Serchuk (dir.), *Quand les artistes dessinaient les cartes: vues et figures de l'espace français, Moyen Age et Renaissance*. 『西洋中世研究』12、150-151 頁。

Patrice Foutakis, *De La Dame à la licorne et de 'son' désir*. 『西洋中世研究』12、154-155 頁。

趙泰昊 (チョウ テホ)

The Performativity of Racial-Religious Identity: The Representation of Saracens in Middle English Romances, *Études Médiévales Anglaises*, vol. 95 (2020), pp. 7-40.

津田拓郎 (ツダ タクロウ)

“On the so called Capitulary of Frankfurt and communication between Charlemagne and Bavaria at the end of the 8th Century”, *Spicilegium* 3, pp. 3-14.

『大立法者』としてのカール大帝の記憶『西洋中世研究』(西洋中世学会) 12、79-92 頁。

「中学校歴史教科書における中世とルネサンスの扱いについて」『史流』(北海道教育大学史学会) 47、63-86 頁。(森悠人との共著)

[翻訳] ヴォルフガング・フシュナー「オットー朝期の君主文書における発給者と受領者の関係」、河内祥輔・小口雅史・M・メルジオヴスキ・E・ヴィダー編『儀礼・象徴・意思決定—日欧の古代・中世書字文化』(思文閣出版)、79-102 頁。

[翻訳] イルムガルト・フェース「オットー朝・ザーリアー朝の君主文書における図像的象徴」、河内祥輔・小口雅史・M・メルジオヴスキ・E・ヴィダー編『儀礼・象徴・意思決定—日欧の古代・中世書字文化』(思文閣出版)、148-165 頁。

[翻訳] アニャ・タラー「[コメント] 文書の文化史への提言」、河内祥輔・小口雅史・M・メルジオヴスキ・E・ヴィダー編『儀礼・象徴・意思決定—日欧の古代・中世書字文化』(思文閣出版)、217-225 頁。

寺田龍男 (テラダ タツオ)

「中世ドイツ文学の写本伝承における本文流動の研究」『北海道大学大学院教育学研究院紀要』137、137-143 頁。

中川久嗣 (ナカガワ ヒサシ)

「南フランス・ロゼール県南部の中世ロマネスク聖堂(3)」『東海大学紀要 文化社会学部』3、119-153 頁。

「南フランス・ガール県東部のロマネスク聖堂(1)」『東海大学紀要 文化社会学部』4、61-82 頁。

「南フランス・ドローム県北部の中世ロマネスク聖堂(2)」『文明研究』(東海大学文明学会) 38、75-108 頁。

中谷惣 (ナカヤ ソウ)

“Fama Publica and Informants in the Judicial Records of Lucca in the 14th Century”, in M. G. Muzzarelli (ed.), *Riferire all'autorità. Denuncia e delazione tra Medioevo ed Età Moderna*, Viella, Roma, pp. 79-95.

奈良澤由美 (ナラサワ ユミ)

「〈双立教会〉考—古代教会の空間機能と祭壇」『まなざしの論理 空間史学叢書 4』岩田書院、121-139 頁。
「カロリング朝時代の組み紐装飾の記憶」『西洋中世研究』12、34-49 頁。

根津由喜夫 (ネツ ユキオ)

『聖デメトリオスは我らとともにあり—中世バルカンにおける「聖性」をめぐる戦い—』(山川出版社)

橋爪烈 (ハシヅメ レツ)

[雑誌論文] Recruitment of Intellectuals in an Early Islamic Society: Mainly in the Buwayhid period, *Historia Scientiarum: International Journal of the History of Science Society of Japan*, 29(2), pp. 198-213.

服部良久 (ハットリ ヨシヒサ)

『中世のコミュニケーションと秩序—紛争・平和・儀礼—』(京都大学学術出版会)

『中世後期ドイツにおける多元的コミュニケーションと政治秩序』(編著、科研費成果報告書)

濱野敦史 (ハマノ アツシ)

「中世末期イタリア都市の奴隷」『歴史評論』846、27-37 頁。

平野智洋 (ヒラノ トモヒロ)

「トラペズス皇女エヴドキア・コムニニとビザンツ皇帝コンスタンディノス 11 世の「祖父」の再婚について」『東海史学』54、21-34 頁。

藤崎衛 (フジサキ マモル)

「教会改革」金澤周作監修『論点・西洋史学』(ミネルヴァ書房)、86-87 頁。

[監訳]ジェレミー・ブラック『300 点の写真とイラストで大図解 世界史』(下田明子訳、ニュートンプレス)

舟橋倫子 (フナハシ ノリコ)

「十二世紀ブリュッセル地域の危機とアフリヘム修道院」妹尾達彦編著『アフロ・ユーラシア大陸の都市と社会』(中央大学出版部)、663-694 頁。

堀越宏一 (ホリコシ コウイチ)

『俵の歴史・西洋編・下』(共編著、清水書院)、「はしがき」(3-6 頁)と「シャルル突進公」(90-103 頁)

「騎射に見る日欧の中世軍事文化の比較—戦い方と身分の表象」江川温他編『東西中世のさまざまな地平—フランスと日本の交差するまなざし—』(知泉書館)、261-278 頁。

三浦麻美 (ミウラ アサミ)

『「聖女」の誕生—テューリングンの聖エリーザベトの列聖と崇敬』(八坂書房)

「呪詛ではなく祝福を—マンズフェルト伯家と家門修道院ヘルフタに見る 13 世紀末の紛争と和解」『西洋中世研究』12、128-143 頁。

三木勲 (ミキ イサオ)

「アルベルティの建築理論における表現媒体を示す言葉と概念についての研究: 建築設計における透視図法の本来の意義をめぐって」『日本建築学会計画系論文集』85(776)、2245-2255 頁。

「アルベルティの modulus についての補足的研究」『日本建築学会 2020 年度大会（関東）学術講演梗概集』357-358 頁。

「アルベルティの建築創作に関する理論構築に果たした透視図法概念の役割」『日本建築学会 2020 年度近畿支部研究報告集、計画系』469-472 頁。

三佐川亮宏（ミサガワ アキヒロ）

[事典項目] 「「ドイツ」という名称」、石田勇治編集代表『ドイツ文化事典』（丸善出版）2-3 頁。

[新刊紹介] Stephan Freund - Gabriele Köster (Hg.) 919 - Plötzlich König. Heinrich I. und Quedlinburg. [Schriftenreihe des Zentrums für Mittelalterausstellungen Magdeburg, Bd.5] Schnell & Steiner 2019、『西洋中世研究』12、154-155 頁。

向井伸哉（ムカイ シンヤ）

“Les relations coopératives entre communautés d'habitants dans la viguerie de Béziers pendant la seconde moitié du XIVe siècle : assemblée, mission, taxation, association”, *Bibliothèque de l'Ecole des chartes*, 174, 2018-2019 (publié en 2020), p. 159-181.

[書評] 仲松優子著『アンシアン・レジーム期フランスの権力秩序—蜂起をめぐる地域社会と王権—』、『西洋史学』268、113-116 頁。

[概説] 「中世フランスの民主主義—都市と村落の自治」、『フランスの歴史を知るための 50 章』（明石書店）、102-108 頁。

武藤奈月（ムトウ ナツキ）

「エニッドとペルスヴァル、クレチアン：『エレックとエニッド』と『聖杯の物語』における視点の交錯」『仏語仏文学研究』（東京大学仏語仏文学研究会）53、3-23 頁。

村上寛（ムラカミ ヒロシ）

『単純な魂の鏡』における「遠きに在りて近きもの」『哲学・科学史論叢』（東京大学教養学部 哲学・科学史部会）22、1-20 頁。

『二原理の書』における悪と意志の関係について『宗教研究』397、27-47 頁。

[書評] Frédéric Nef, *La connaissance mystique: Énergie et frontières* 『中世思想研究』62、145-148 頁。

村田光司（ムラタ コウジ）

Roman and Byzantine Coin Finds from the Basilica. *The City Basilica of Tlos* (Taner Korkut & Satoshi Urano eds.), Istanbul, Koç University Press, pp. 221-226.

Byzantine Lead Seals from the Basilica. *The City Basilica of Tlos* (Taner Korkut & Satoshi Urano eds.), Istanbul, Koç University Press, pp. 227-230.

「壁画と文書の出会い—ビザンツ後期キリスト教聖堂における皇帝文書利用の一側面—」『西洋史学』268、78-91 頁。

「キルギス共和国出土ローマ・東ローマ帝国貨幣と模倣貨」『Heritex』3、386-395 頁。

Surviving between East and West: An exiled Byzantine Empire in the thirteenth-century Eurasian context. *IAR Letter* (Nagoya University) 18, pp. 15-16.

[書評] 「高田英樹（編訳）『原典 中世ヨーロッパ東方記』」『史苑』80 (2)、214-226 頁。

[新刊紹介] 「Dimitar Angelov, *The Byzantine Hellene: The Life of Emperor Theodore Laskaris and Byzantium in the Thirteenth Century*」『西洋中世研究』12、146-147 頁。

八木健治（ヤギ ケンジ）

「羊皮紙が秘める作家の想い—梅原龍三郎とパウル・クレー」『石橋財団アーティゾン美術館研究紀要』（石橋財団アーティゾン美術館）1、75-78 頁。

山内志朗（ヤマウチ シロウ）

『世界哲学史第三卷中世Ⅰ』（伊藤邦武・中島隆博・納富信留との共編、筑摩書房）

『世界哲学史第四卷中世Ⅱ』（伊藤邦武・中島隆博・納富信留との共編、筑摩書房）

『世界哲学史第五卷中世Ⅲ』（伊藤邦武・中島隆博・納富信留との共編、筑摩書房）

「〈ある〉の第三領域—アヴィセンナ存在論の影響」土橋茂樹編『存在論の再検討』（月曜社）、192-214 頁。

山辺規子（ヤマベ ノリコ）

「ボローニャ—都市と大学の誕生と発展—」『関学西洋史論集』。43、39-70 頁。

渡部武士（ワタナベ タケシ）

[新刊紹介] Miikka Tamminen, *Crusade Preaching and the Ideal Crusader*, Turnhout, Brepols, 2018

『西洋中世研究』12、173-174 頁。

渡邊裕一（ワタナベ ユウイチ）

「黒い森」石田勇治ほか編『ドイツ文化事典』（丸善出版）、34-35 頁。

[翻訳] ゲオルク・シュトラック「修道士ロベール、イタリアの人文主義者たち、クレルモンの宗教会議（1095年）（特集：ルネサンスにおけるテキスト・知識人・政治）」『史苑』81(1)、46-70 頁。